

総会・会長に藏崎哲治氏選任 合同研修会・暑熱対策学ぶ



■総会

中村会長（山口県酪農協）の開会挨拶に続いて、来賓の荒木所長（全酪連大阪支所）が祝辞を述べられた。議長は規約十条の定めにより中村会長を選任、書記は若槻氏（全酪連大阪支所三次駐在員事務所）が務めた。五会員中五会員が出席し、賛助会員一名の出席によって、総会は無効成立し、第一号議案「平成二十九年度（第二十二年度）事業報告並びに収支決算」、第二号議案「平成三十年度（第二十三年度）事業計画並びに予算（案）」、第三号議案「平成三十年度会費の徴収方法」、第四号議案「役員選出」を上程し、全議案可決承認した。

役員改選では、会長に藏崎氏（広酪）が就任、副会長には上村氏（島根県・三瓶開拓酪農）、監事には山下氏（山口県・防府酪農）が就任された。

報告事項では、全酪連大阪支所の市川統括アドバイザーから七月十九日から二十日の両日「グラントプリンスホテル広島」にて第四十七回全国酪農青

中国三県購買担当者会（会長 中村剛）は、平成二十九年度（第二十二年度）総会と第三十六回合同研修会を開催し、広酪からは藏崎課長（生産振興課）が出席した。

年女性酪農発表大会が開催されるにあたり関係者多数の参加を呼びかけられた。

■研修会

日産合成工業株式会社販売推進部から関根禪課長、増田詠子さんを講師に招き「暑熱時におけるビタミン・ミネラルの給与とバイパスナイアシンによる暑熱効果及び脂質代謝」とする演題で研修を行った。

「バイパスナイアシン」は、ビタミンB群の種類の一つであり、移行期の給与では、全身の代謝に関わる補酵素の補給により代謝を円滑に末梢神経の脂肪組織からの脂肪動員を抑制する効果や、繁殖対策では、体温低下による暑熱期の受胎率維持と子宮への血流改善による早期胚死滅対策に有効であると力説された。同社による「バイパスナイアシン」を含む商品として、ナイアシンの混合新製剤「ナイアクール」を紹介があった。給与量は一日一頭当たり十二g。広酪では、この商品を取り扱っており、使用時にはご相談下さい。

採用情報

平成31年4月1日付け採用の正職員を募集します。

ご希望の方は、募集要領をご覧のうえ、必要書類を添えてご応募ください。

募集区分	：正職員（総合職）	応募書類	：履歴書・成績証明書・卒業見込証明書・健康診断書
対象	：平成31年3月大学・高校卒業又は卒業見込みの方	選考方法	：筆記試験（一般教養・適性）及び作文、面接
職種	：総合職（営農指導・渉外含む）	採用試験日	：平成30年11月下旬を予定
採用人数	：若干名	応募先	：広島県酪農業協同組合
待遇	：当組合の規定による		総務管理課（吉岡）電話 0824-64-2071
応募締切日	：平成30年10月31日（水）		

検定事業に係る補助事業説明会

五月十五日 全水道会館・東京都文京区本郷

平成三十年度酪農経営支援総合対策事業（乳用牛改良増殖推進事業）に係る勉強会が開催され、河野洋一技師（経営支援課）が参加した。説明のあった各事業の概要は以下のとおり。

一 平成三十年度乳用牛改良増殖推進事業（遺伝的能力向上対策）

①平成二十九年七月以降に生まれた未経産牛、②牛群検定加入牛（または牛群検定加入が見込まれる牛）、③血統登録牛（または血統登録が見込まれる牛）の三つの条件を満たす牛を対象で、④後代検定娘牛、⑤同世代牛を対象として、尾房部の毛根を百本程度採取。SNP検査を行い、それぞれのゲノミック評価を示して、乳用牛の改良を進めることを目的としている。広酪では昨年度四十頭のSNP検査を実施し、今年度も同程度の実施見込み。

二 平成三十年度酪農経営支援総合対策事業（乳用牛改良増殖推進事業）

生産者集団等が飼養管理技術の向上を図るため、乳用牛の飼養管理技術の指導及びそれらに必要な分析・検査等を実施するために要する経費について補助金が交付される。今年度から「血液代謝プロファイル検査」が追加。広酪管内での利用者も多いため、前年度実績を基準に申請する見込み。

三 平成三十年度畜産生産能力・体制強化推進事業（乳用牛改良のために必要なデータの収集）

昨年度までは農政局が行っていた「繁殖や飼料データの収集」に対して補助金が交付される。本年度は乳用牛群検定全国協議会が実施主体となり、これに伴い、補助額が概ね二十五%カットになる見通し。前年度実績は六十二万一千円。

日々徒然



かがやき

▼ FIFAWワールドカップロシア大会が開催され、日本は惜しくもベスト八を逃しました。特に勝ちこだわった決勝トーナメント進出をかけたポランド戦終盤でのパス回しでの時間稼ぎは物議を呼びましたが、柔道では指導となる行為はみなされず、他力に任せたい判断は戦術のひとつと評価したいと思えます。

▼ さて、サッカー界においては組織プレーが重要視されます。ポールの動きによって、それぞれのポジションが入れ替わり連動します。

▼ ポールだけを見ているのではなく、相手の動きを見て、次の行動を予測し、創造性も求められ、一人のスーパースターだけでは勝てきれないチームプレーが重要な素質です。ただし、個人の意識と性質にもよりますが、雑なプレーはご法度です。

▼ 試合時間は九十分。どんなに上手な選手でも、ボールを持っている保持時間は一分に満たないとも言われています。多くの選手はボールに触っていませんが、重要な動きはボールを持っていない時の動きです。決して、さぼっているわけではなく、連動して攻守を切り替えています。テレビでは全体が映りませんが、視点を変えて流れるような攻撃やカウンターの攻撃、オフサイドトラップ（おな）等の戦術が見られれば更に面白いかもしれませぬ。

▼ 運動量においても、常に九十分間を走り続けるのではなく、「ここぞ！」という時にトップスピードで走り込んでゴールを決めるスト

ライカーもいます。むしろ、ゴール数と運動量は比例せず、最小限の運動量で効率的にゴールを決める選手もいます。

▼ 「サッカーは人生の縮図」という言葉があります。それは、チーム全員でゴールを目指し、喜びを共有する。それぞれのポジションで個性を發揮し、それを掛け合わせ、強いチーム作り。得点者だけでなく、全員が主役として活躍する。特に九十分間という限られた時間内で、ゴールを決めるためにボールを持っていない時にどうにか動くか。ボールを持った時にはパスなのか、ドリブルなのか、シュートなのか。常に状況が変わるフィールドの中では瞬時の判断と対応力、適応力が求められます。その上で、監督は如何に正しい判断を下し続けることができるか。それが勝敗の鍵を握ります。

▼ ポールを仕事に置き換えれば、仕事を受ける前にイメージして、それを受ける準備をしておく。監督は誰で、自分はどういうポジションを、自分を取り、どのように行動すべきか、組織論を語るうえでピジネスにも通じます。

▼ 皆さんが家庭や牛舎内でも同様に小さな組織かもしれませんが、自らが監督なのか、選手なのか、自分の立ち位置を意識した行動を考えてみましょう。

▼ サッカーを「人生」に例えると、限られた時間の中で、自らのフィールドを一生懸命に走り、ルールを守ったフェアプレーが評価されます。そうした中で「ハンパない」と言われるプレーが出来れば「ハンパないサイです！」たまには休み休み、他力にも頼りながら……

(T・Y)

